日本教育方法学会

第46回大会プログラム

《大会日程》

第一日 10月9日（土）

時刻									
8：30	受付開始								
9：15〜11：15	課題研究Ⅰ 教科書の教育方法学的検討				課題研究Ⅱ 現代の子ども・青年の社会的な力と関係性の構築				
11：20〜12：10	総会								
12：10	休憩								
13：00〜15：40	自由研究1	自由研究2	自由研究3	自由研究4	自由研究5	自由研究6	自由研究7	自由研究8	自由研究9
15：50〜18：20	公開シンポジウム 日本の授業研究の特質と課題								
18：30〜20：00	会員懇親会								

第二日 10月10日（日）

時刻								
8：30	受付開始							
9：00〜12：10	自由研究10	自由研究11	自由研究12	自由研究13	自由研究14	自由研究15	自由研究16	自由研究17
12：10	休憩							
13：15〜15：15	課題研究Ⅲ 教育方法学の学問的固有性とは何か				課題研究Ⅳ 学習評価の観点の改訂と授業の改善			
15：30〜17：00	ラウンドテーブル①	ラウンドテーブル②	ラウンドテーブル③	ラウンドテーブル④	ラウンドテーブル⑤	ラウンドテーブル⑥	ラウンドテーブル⑦	ラウンドテーブル⑧

2010年10月9日（土）・10月10日（日）

於　国士舘大学（世田谷キャンパス）

大会参加要領

1．会場案内：会場は，国士舘大学(世田谷キャンパス）です。会場への経路につきましては，次頁をご参照ください。

2．受　　付：両日ともに8：30からとなります。
受付は34号館1階フロアで行います。

・大会参加費（『大会発表要旨』代を含む）は，一般会員4,000円，学生会員3,000円です。
・当日会員（臨時会員）もこれに準じて受け付けております。
・本年度までの学会費（一般会員8,000円，学生会員6,000円）を未納の方は，あわせてお納めください。
・本年度の学会費を納入された方には，受付にて『教育方法39』をお渡しします。
・会員懇親会の参加受付も行いますので，ふるってご参加ください。会費は4,000円となっております。詳しくは，14頁の「インフォメーション」をごらんください。
・受付にてネームプレートを用意しておりますので，お名前をお書きのうえ，おつけください。

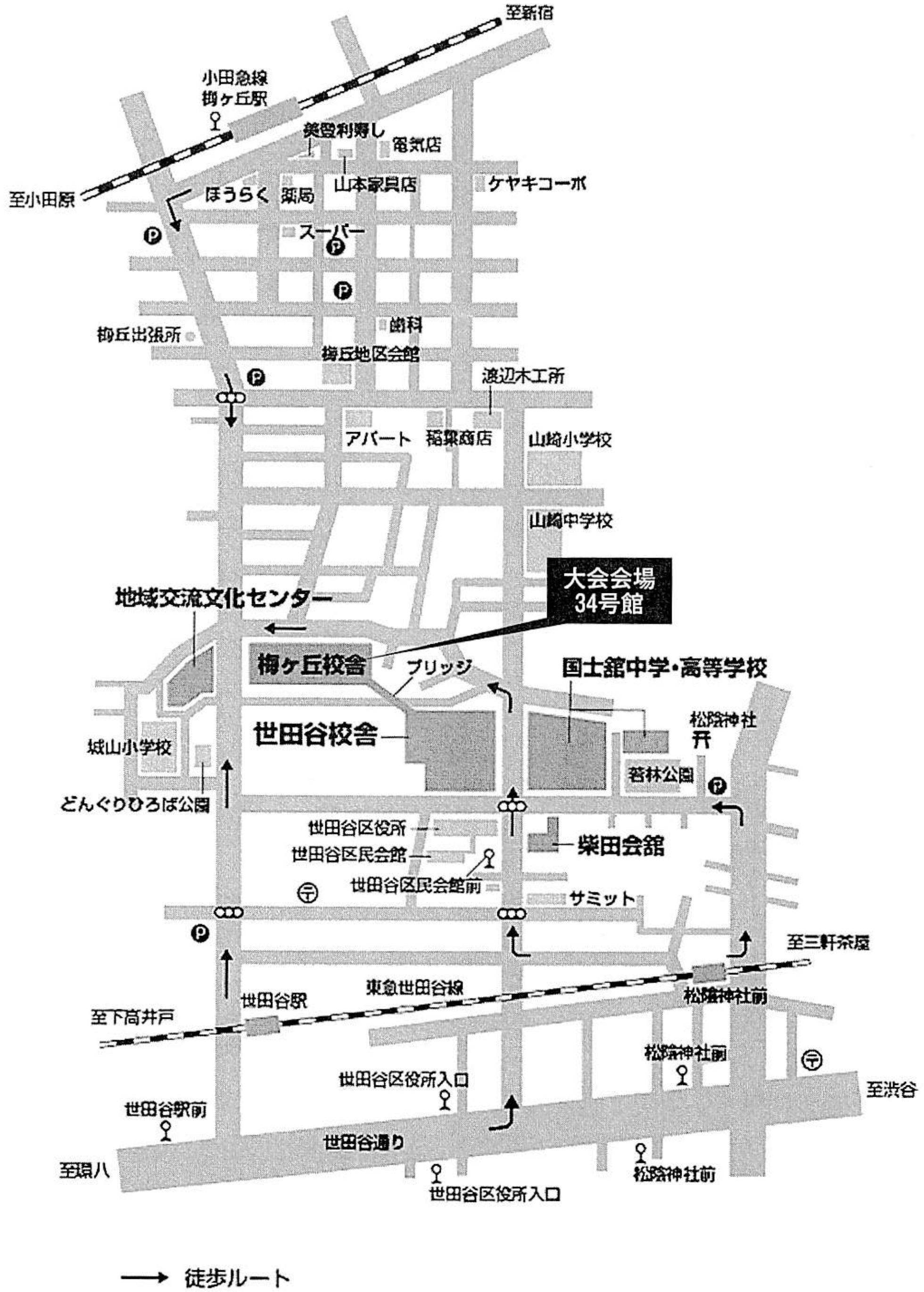
3．昼　　食：両日とも，34号館地下1階の学生食堂が営業しておりますので，ぜひご利用ください。また，土曜日のみ34号館10階のスカイラウンジも営業しております。あわせてご利用ください。

4．研究発表：発表会場につきましては，4・5頁の「会場配置図」をご覧ください。

・自由研究の発表時間は，以下の通りです。
　個人研究：発表20分　質疑10分
　共同研究：発表30分　質疑10分
　（但し，口頭発表者が1名の場合は，個人研究に準じます。）
・自由研究における共同研究発表者の氏名にある○印は口頭発表者を表しています。

※大会に関するお問い合わせは，前々日7日までに学会事務局（TEL/FAX：082-424-6744）にお願いいたします。

〈国士舘大学（世田谷キャンパス）案内図〉



→ 徒歩ルート

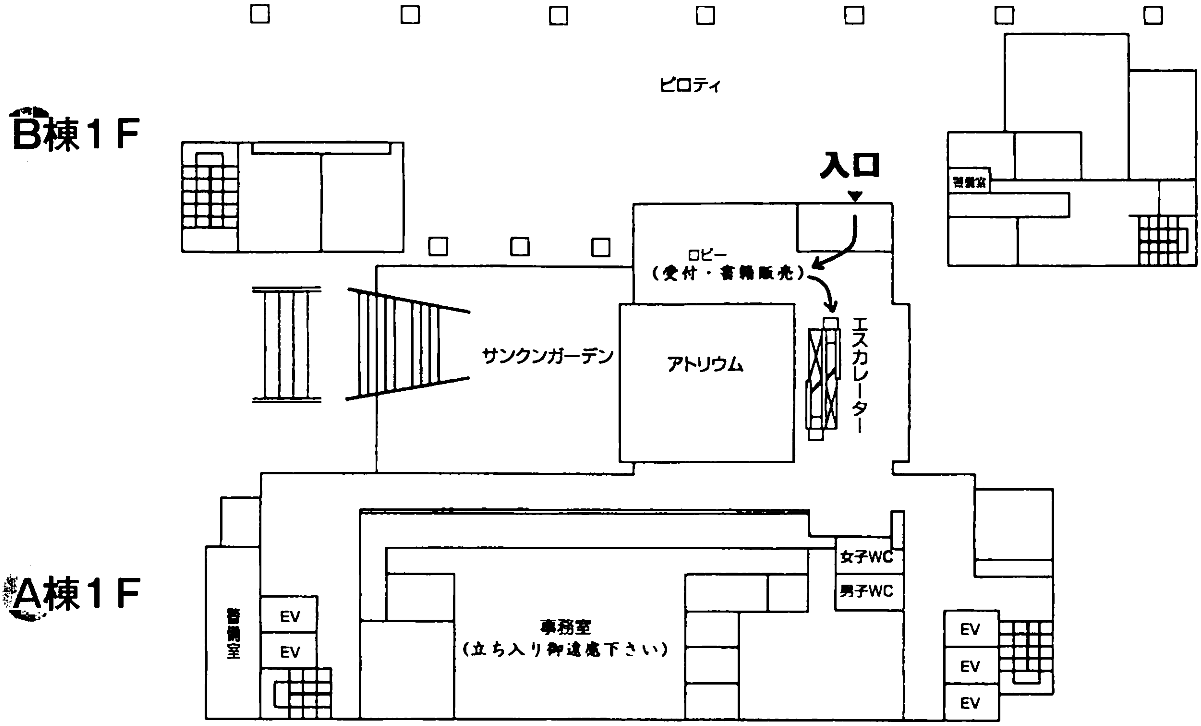
〈交通手段のご案内〉

①小田急線梅ヶ丘駅下車，徒歩９分

②東急世田谷線松陰神社前駅または世田谷駅下車，徒歩６分

③渋谷駅南口バス乗場18番「世田谷区民会館行」バスで終点下車，徒歩１分

〈会　場　配　置　図〉



（会場へは上の矢印のように受付に寄ってすぐのエスカレーターを利用されるのが便利です。）

会場配置

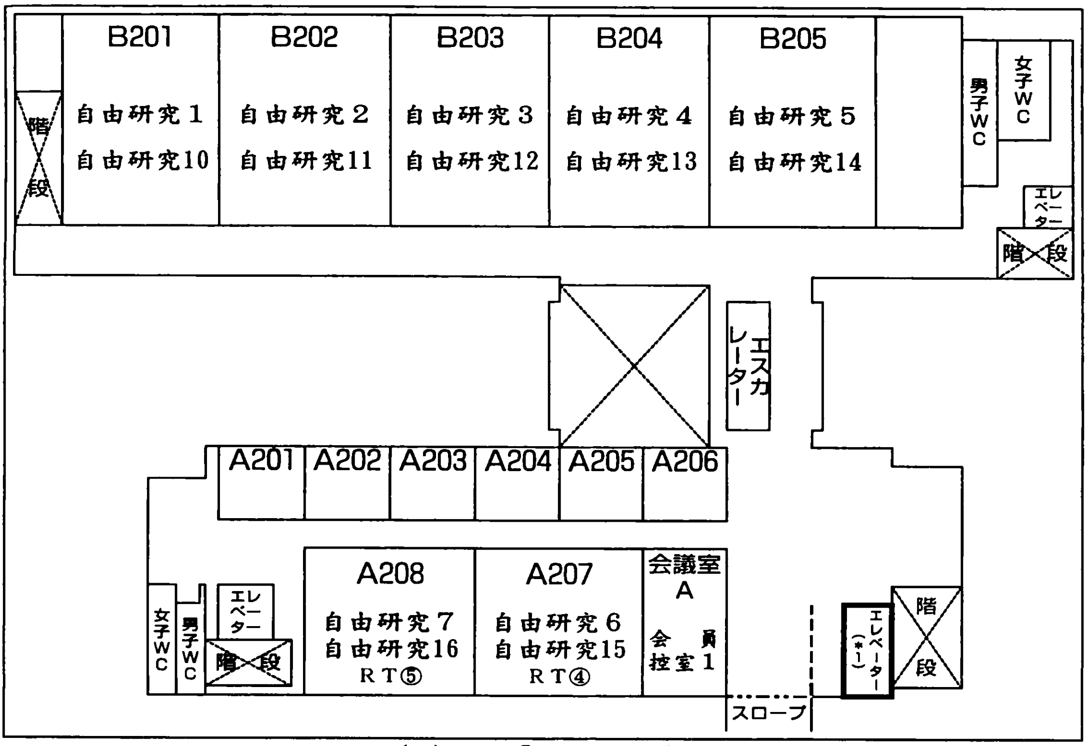
総会・
　公開シンポジウム：３階Ｂ301教室
課題研究Ⅰ・Ⅲ　　：３階Ｂ303教室
課題研究Ⅱ・Ⅳ　　：３階Ｂ304教室
自由研究１・10　　：２階Ｂ201教室
自由研究２・11　　：２階Ｂ202教室
自由研究３・12　　：２階Ｂ203教室
自由研究４・13　　：２階Ｂ204教室
自由研究５・14　　：２階Ｂ205教室
自由研究６・15　　：２階Ａ207教室
自由研究７・16　　：２階Ａ208教室
自由研究８・17　　：３階Ａ308教室
自由研究９　　　　：３階Ａ310教室

ラウンドテーブル①：３階Ａ308教室
ラウンドテーブル②：３階Ａ309教室
ラウンドテーブル③：３階Ａ310教室
ラウンドテーブル④：２階Ａ207教室
ラウンドテーブル⑤：２階Ａ208教室
ラウンドテーブル⑥：３階Ａ304教室
ラウンドテーブル⑦：３階Ａ305教室
ラウンドテーブル⑧：３階Ａ306教室

会員控室：２階会議室Ａ
　　　　　３階Ａ309教室（二日目は，12:10まで）
事務局：３階Ａ301教室，Ａ302教室

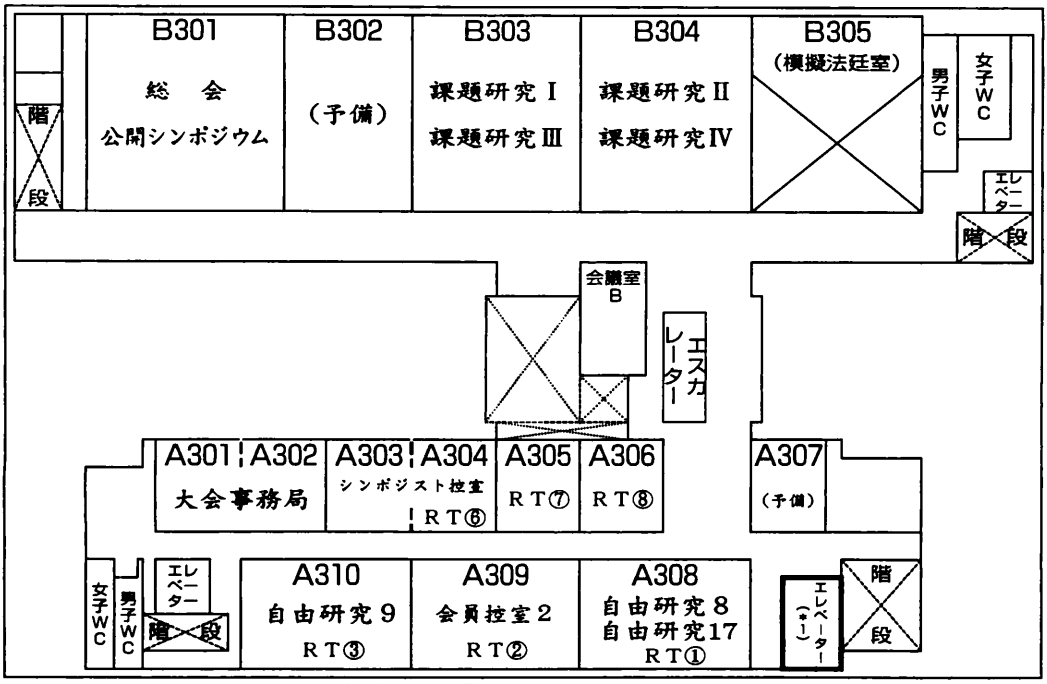
※会員懇親会の会場は，国士舘大学34号館10階
　スカイラウンジです。

34号館 2階 案内図



（*1） 10階「スカイラウンジ」へは，こちらのエレベーターをご利用下さい。

34号館 3階 案内図



（*1） 10階「スカイラウンジ」へは，こちらのエレベーターをご利用下さい。

10月9日(土)　9：15～11：15

課題研究Ⅰ

教科書の教育方法学的検討

（34号館3階B303教室）

コーディネーター・司会者
　池野範男（広島大学）
　市川　博（帝京大学）

提案者

小柳和喜雄（奈良教育大学）教科書のデジタル化，その可能性と利用に関する検討課題 …… 29

草原和博（広島大学）社会科教科書における機能の転換と活用法の深化 ―教科書からテキストが消えない理由，消える理由― …… 31

安達仁美（信州大学）
畔上一康（信州大学附属長野小学校）地域に根ざした教科書にみる信州の教育観 ―生活科の教科書を通して― …… 33

〈設定趣旨〉

教科書は，これまで学習指導要領の基準の規制の視点から，内容論から論議されることが多かった。高度科学技術の発達によって，学校の機能・在り方も問い直されつつあるのに，多くの学校では，相変わらず，教科書の内容を金科玉条として教え込む教育が展開されている。

今日の新たな状況の中で，教科書観・在り方・使われ方を，その背後にある学力観・授業のスタイルとも関係づけ，教育方法学の視点から根本的に再検討し，授業の改革を図ることを目指して，本課題研究を設定した。

そこで，これまでの紙媒体が主要であった教科書が電子情報化時代を迎え，どう変化させるべきかについて小柳和喜雄会員に，1960年代の現代化における教育改革の中で多様な教科書を生み出し，現在も使用されているアメリカの教科書（分厚く，学校でのみ使用し，書き込みも出来ない教科書）の在り方と今後の方向性について草原和博会員に，全国的な汎用を念頭に置いた教科書観と一線を画し，地域に即した独自な教科書が必要だという考えから編纂・使用されている地域版教科書（信濃教育研究所出版部発行）に関して安達仁美会員と畔上一康氏に登壇願って，21世紀の教科書の在り方を教育方法学の視点から検討したい。

10月 9 日(土)　9：15～11：15

課題研究 II

現代の子ども・青年の社会的な力と関係性の構築

(34号館 3 階B304教室)

コーディネーター
　折 出 健 二 (愛 知 教 育 大 学)
　湯 浅 恭 正 (大 阪 市 立 大 学)

司会者
　奥 平 康 照 (和 光 大 学)
　湯 浅 恭 正 (大 阪 市 立 大 学)

提案者

秋 田 喜代美	(東 京 大 学)	幼児期と児童期の遊びと学びにおける課題から…	35
今 関 和 子	(和光大学・非常勤)	子どもと子どもをつなぐために —子どもたちの少年期を取り戻す— ………	37
折 出 健 二	(愛 知 教 育 大 学)	子どもの現実から関係性の変革を読みひらく…	39

〈設定趣旨〉

子どもたちの「社会的な力」をめぐっては，遊びや学習，自主活動の多様な場面で他者とつながることが苦手であったり，感情表現がうまくできなかったり，内面を言語化して相手に伝えることが弱かったりするなど，現象的には多くの課題があるとされている。しかし，一方では，小学校高学年以降は，相手を親友・信友・心友と使い分けるなど，関係性の欲求には敏感である。また携帯ツールを使って，多様な自前のつながりをつくり出してもいる。そして，うまくお互いの要求がつながれば，おもしろい企画を発揮して，共同して創造的な活動を展開していくこともできる。このような「社会的な力」の持つ二面性あるいは内的な矛盾をどう読み開いて，一人ひとりの，また集団としての自主的・自治的な世界をどのように築き出していくのか。ここに，今日の学校の活性化，子どもたちの学びの創造にとっての基盤的なテーマがある。こうした課題を研究者・実践家の双方から提起していただき，いま関係性をどう構築していくかを討論したい。

10月9日(土)　13：00～15：40

自由研究1　(34号館2階B201教室)

司会者　庄井良信(北海道教育大学)
山﨑準二(東洋大学)

13：00　① イエナ大学附属学校における教育実践に関する一考察
－シュトイにおける授業と学校生活の相互関連を中心に－……41
熊井将太(広島大学大学院)

13：30　② オーストリアにおける労作教育実践の歴史……42
伊藤実歩子(甲南女子大学)

14：00　③「共同体中心（community centered)」学校を目指したデューイ実験学校
(Dewey's Laboratory School）の教育実践に関する研究……43
森久佳(愛知江南短期大学)

14：30　④ フランスの異年齢学級において「フレネ技術」を導入した教育実践
－「モーホガール初等学校」と「ビズ学校」を中心に－……44
坂本明美(山形大学)

15：00　⑤ フランスの新教育運動と実験学校 (2)
－異学年混成学級の教育実践－……45
赤星まゆみ(福山平成大学)

自由研究2　(34号館2階B202教室)

司会者　豊田ひさき(中部大学)
水原克敏(東北大学)

13：00　① 英国における数学教育改造運動
－ジョン・ペリーに焦点を当てて－……46
大下卓司(京都大学大学院)

13：30　② 雑誌『教育論叢』における国語指導法研究……47
吉村敏之(宮城教育大学)

14：00　③ 芦田恵之助の読み方教授法
－発問から見る読み方教授の研究－……48
神谷キヨ子(神戸女子大学大学院)

14：30　④ 木下竹次の「学習法」の構造
－J. デューイの探究の理論との比較を通して－……49
岩花春美(奈良女子大学大学院)

15：00　⑤ 北方性教育運動と「生活綴方的教育方法」
－東北民教研の実態調査から－……50
臼井嘉一(国士舘大学)
○田中武雄(国士舘大学・非常勤)
板橋孝幸(福島大学)
○土屋直人(岩手大学)

10月 9 日(土)　13：00～15：40

自由研究３　（34号館２階B203教室）

司会者　平山満義（順天堂大学）
　　　　藤田昌士（元・立教大学）

13：00　① 子どもの多様性と授業構成に関する一考察
　　　　　－ドイツ教授学における異質性と同質性をめぐる議論を手がかりに－ … 51
　　　　　田中紀子（広島大学大学院）
13：30　② 「荒れた」クラスにおける「問題行動」をおこさない生徒たちへの関わりについて
　　　　　－メルロ＝ポンティの存在論を導きとした「荒れの中心」の捉え直し－ … 52
　　　　　福田　学（東京大学大学院・研究員）
14：00　③ 多面的・多角的な授業分析の開発的研究
　　　　　－「子どもによる授業分析」を通して－ …… 53
　　　　　清水良彦（九州大学大学院）
14：30　④ オープン・カレッジにおける教育課程（カリキュラム）の事例について
　　　　　－知的障害のある人を対象としたオープン・カレッジより－ …… 54
　　　　　岩永力男（大阪大学）
15：00　⑤ 「授業の山場」の研究２
　　　　　－「出る」ものか，「出す」ものか－ …… 55
　　　　　櫻井眞治（東京学芸大学）

自由研究４　（34号館２階B204教室）

司会者　小川博久（聖徳大学）
　　　　三橋謙一郎（徳島文理大学）

13：00　① 教師のエンパワーメントを実現する授業研究の条件 (1)
　　　　　－当事者性への着目と研究者の役割－ …… 56
　　　　　○藤本和久（慶應義塾大学）
　　　　　大島　崇（九州大学大学院）
　　　　　鹿毛雅治（慶應義塾大学）
13：30　② 教師のエンパワーメントを実現する授業研究の条件 (2)
　　　　　－「当事者主体型授業研究」の実践事例の分析－ …… 57
　　　　　○大島　崇（九州大学大学院）
　　　　　藤本和久（慶応義塾大学）
　　　　　鹿毛雅治（慶應義塾大学）
14：00　③ 学級経営上の諸問題からもたらされる小学校教師の学級・学年・学校経営観の再構成
　　　　　－実践記録の意義と活用－ …… 58
　　　　　佐藤郁子（東京学芸大学大学院）
14：30　④ 授業における「子供同士が話し合う」活動に対する教師の意図と
　　　　　指導場面におけるズレ …… 59
　　　　　中田正弘（帝京大学）
15：00　⑤ 授業分析用中間記述言語による児童発言の相互関連の分析 …… 60
　　　　　柴田好章（名古屋大学）

10月9日(土)　13：00～15：40

自由研究5　(34号館2階B205教室)

司会者　高田　清（福岡教育大学）
山崎雄介（群馬大学）

13：00　① 授業中の感情経験が教師に導く省察過程
－高校教師の語りにもとづく感情の実践的意義の探究－…… 61
木村　優（福井大学大学院・機関研究員）

13：30　② イランと日本のティーチング・スクリプトの比較授業分析
－中学校一年数学「正の数と負の数」の事例を中心に－…… 62
サルカール アラニ・モハメッド レザ（星城大学・研究員）

14：00　③ マルチモダリティ（Multimodality）概念を用いた授業の解釈と構成に関する研究… 63
八木秀文（安田女子大学）

14：30　④ 教師の〈観〉の編み直しを支える授業研究…… 64
吉永紀子（福島大学）

15：00　⑤ 保存された授業記録に基づく授業研究
－教師への聞き取りによる振り返りと評価の試み－…… 65
○田上　哲（九州大学）
大島　崇（九州大学大学院）
○下地貴樹（九州大学大学院）
○藤井佑介（九州大学大学院）
清水良彦（九州大学大学院）
○山下あゆみ（九州大学大学院）
○田中千晴（九州大学大学院）

自由研究6　(34号館2階A207教室)

司会者　姫野完治（秋田大学）
三村和則（沖縄国際大学）

13：00　① 教職課程履修生の授業改善を目的とした授業分析…… 66
宮野智暢（大阪国際大学大学院）

13：30　② 短大授業の質の確保と授業改善
－保育授業の展開事例から－…… 67
腰山　豊（聖園学園短期大学）

14：00　③ 教育実習事前事後指導における模擬授業の課題
－教育実習報告会から－…… 68
江原京子（群馬医療福祉大学）

14：30　④ 子どもと共に授業を創る
－日本教育方法学会編『日本の授業研究』に触発された元小学校教員の「教職課程」授業実践論－…… 69
小川修一（民主教育研究所）

15：00　⑤ 問題事象・事件は子どもの認識を変え育てるチャンスである…… 70
麻生信子（「授業塾」代表）

10月９日(土)　13：00～15：40

自由研究７　（34号館２階Ａ208教室）

司会者　木原俊行（大阪教育大学）
子安　潤（愛知教育大学）

13：00　① ネット依存を考える参加型学習のあり方
－高等学校における授業実践を通して－…… 71
鶴田利郎（早稲田大学大学院）

13：30　② 「福井型教育」を探る
－全国的な学力調査結果を踏まえて－…… 72
上野澄子（福井市棗小学校）

14：00　③ フィンランドにおける子ども・若者の実態とニーズに応じた柔軟な学校システムと運営
－職業教育機関オムニア（Omnia）及び中等学校特別クラスでの
マイオウンキャリア（My own career）プロジェクトを素材に－…… 73
富田充保（札幌学院大学）

14：30　④ 自他の権利とその保障を学ぶ学習…… 74
福田八重（帝京科学大学）

15：00　⑤ 民主的な「学び」をめざす教育方法の検討
－「ランキング」手法の意義考察から－…… 75
岩本　泰（東海大学）

自由研究８　（34号館３階Ａ308教室）

司会者　大野栄三（北海道大学）
加納幹雄（金沢大学）

13：00　① ライティング活動におけるピア・フィードバックに対する英語教師と
国語教師の介入の比較分析…… 76
児玉悠佳（広島大学大学院）

13：30　② ドシモロジーの成立と展開
－フランスにおける精神測定学をめぐる論点－…… 77
細尾萌子（京都大学大学院，日本学術振興会特別研究員）

14：00　③ 発達を導く「介入」に関する一考察
－ダイナミック・アセスメント研究における課題－…… 78
平田知美（和歌山大学）

14：30　④ 科学的概念の形成における内化・内省・外化
－OPPAの活用を中心にして－…… 79
堀　哲夫（山梨大学）

15：00　⑤ 結びあうハイブリッドな学習活動の創造
－地域の伝統野菜をテーマにした教育実践の開発に関する活動理論的研究－… 80
○山住勝広（関西大学）
○島田(冨澤)美千子（関西大学）
○伊藤大輔（金沢工業大学）
○蓮見二郎（慶應義塾大学）

10月 9 日(土)　13：00～15：40

自由研究9　　(34号館 3 階A310教室)

司会者　桂　直美(東洋大学)
権藤敦子(広島大学)

13：00　① フリッツ・イェーデの音楽教育論
—「創造」のための教育に焦点をあてて— …… 81
小山英恵(京都大学大学院，日本学術振興会特別研究員)

13：30　② 幼児期における言葉のリズムによる音楽経験の再構成の方法
—音楽経験促進プログラムの実践過程の考察から— …… 82
佐野美奈(大阪樟蔭女子大学)

14：00　③ ユネスコ芸術教育世界会議「ソウル・アジェンダ」(2010) から見える日本の芸術教育の課題
—特に音楽科教育の方法論において— …… 83
宮下俊也(奈良教育大学)

14：30　④ 初等教員養成における音楽科教育法のカリキュラムデザイン
—音楽劇を通して子どもと出会う— …… 84
谷本直美(桐蔭横浜大学)

10月９日(土)　15：50～18：20

公開シンポジウム

日本の授業研究の特質と課題

（34号館３階B301教室）

コーディネーター
　臼井嘉一（国士舘大学）
　的場正美（名古屋大学）

司会者
　臼井嘉一（国士舘大学）
　柴田義松（東京大学名誉教授）

提案者

　土井捷三（園田学園女子大学）砂沢喜代次と全授研
　―「教育実践としての授業研究」を中心に―…　85

　深澤広明（広島大学）「学習集団の思想」をふまえた授業研究………　87

　的場正美（名古屋大学）現代の授業研究における授業分析の位置と意味…　89

指定討論者
　鹿毛雅治（慶應義塾大学）
　寺岡英男（福井大学）
　松下佳代（京都大学）

〈設定趣旨〉

本学会研究推進委員会は2007年３月に「世界における日本の授業研究の意義と課題を問う」のテーマでシンポジウムを開催し，その年の第43回大会総会において，日本の教師の資質の高さ，それを支えた自主的で綿密な授業研究の遺産や意義，そして今後の授業研究のあり方を明確にし，日本だけでなく世界にも発進することをめざして著作物を刊行することを決定した。それが2009年９月に刊行された「LESSON STUDY IN JAPAN 日本の授業研究〈上巻〉授業研究の歴史と教師教育」と「同〈下巻〉授業研究の方法と形態」である。

本シンポジウムでは，以上の刊行を踏まえて，改めて1950年代から1960年代にかけて勃興した授業研究の特質と課題について検討し，教室での授業観察，授業改善に有効な授業記録の方法，教師が互いに授業を観察し，討論する文化の構築などについて明らかにしつつ，日本の授業研究の新しい地平を拓くことを目的として開かれるものである。

本シンポジウムにおける主要な討論の柱は次の２点である。第１の柱は，戦後における授業研究全体を概観してその今日的問題と課題を解明することである。第２の柱は，今日の授業研究の新たな動きと今日的課題をふまえ，日本の授業研究の新しい地平を切り開く提案をすることである。第１の討論の柱のために，第１の提案では「全授研」の砂沢喜代治氏の「教育実践としての授業研究」の特質と課題を，第２の提案では，吉本均氏の「学習集団と授業研究」の特質と課題を，第３の提案では「初志の会」の重松鷹泰氏の「授業記録を基礎とした授業分析」の特質と課題を明らかにする。そして，その提案に対する３人の指定討論者から鋭角的な質問と提言にもとづいて，第２の討論の柱である新しい地平をさまざまな角度から批判的に解明したい。

インフォメーション

◉会員総会

日　　時　：　第一日（10月９日(土)）11:20〜12:10

会　　場　：　34号館３階Ｂ301教室

主な議題　：　会務報告

2009年度決算

2011年度予算案

次期大会校

昼食・休憩前ですが，ぜひとも多数ご参集ください。

◉会員懇親会

日　　時　：　第一日（10月９日(土)）18:30〜20:00

会　　場　：　34号館10階　スカイラウンジ

会　　費　：　4,000円

会員相互の親睦をはかるため，懇親会を開きます。多数の会員のみなさまの参加をお願いいたします。

◉書籍販売について

学会事務局では，受付にて学会機関誌『教育方法』，研究紀要『教育方法学研究』，『大会発表要旨』の最新刊およびバックナンバーを，大会割引価格で販売いたします。この機会にぜひお求めください。

なお，『教育方法』最新刊（第39巻）は，本年度の学会費を納入された方には，受付の際にお渡しいたします。(大会以降に学会費を納入された方には，随時お手元に郵送いたしております。)

10月10日(日)　9：00～12：10

自由研究10　(34号館2階B201教室)

司会者　田上　哲(九州大学)
藤原幸男(琉球大学)

9：00	①	いじめ問題から見た授業実践に関する一考察…… 91 竹内誠人(広島大学大学院)
9：30	②	現象学的教育実践から感受される教育荒廃の徴候 －教育的世界の超越論的考察(2)－…… 92 崎浜　聡(高松市立田井幼稚園)
10：00	③	「特別な配慮を要する」子どもを含む学級づくりの事例研究 －現象学的アプローチから－…… 93 田端健人(宮城教育大学)
10：30	④	学級経営に「核」をつくる －学級集団が結束し高まりゆく活動の設定－…… 94 大杉　稔(滋賀県高島市立新旭北小学校)
11：00	⑤	授業における集団的な思考の過程に関する一考察…… 95 杉本憲子(茨城大学)
11：30	⑥	ユビキタス映像記録視聴システムを活用した教職課程履修生の 教育実践能力育成支援の試み…… 96 ○平山　勉(名城大学) ○後藤明史(名古屋大学) 竹内英人(名城大学)

自由研究11　(34号館2階B202教室)

司会者　白石陽一(熊本大学)
三上勝夫(北海道教育大学名誉教授)

9：00	①	ルイーズ・ローゼンブラットの文学理論のカリキュラムへの応用可能性の考察… 97 福田吉高(東京大学大学院)
9：30	②	物語の授業の基礎構造記述の試み －新美南吉『おじいさんのランプ』の生徒感想相互評価による－…… 98 中道豊彦(愛知県立知多翔洋高等学校)
10：00	③	主観批評の相互開示による知の共同探究(2)…… 99 水野正朗(名古屋市立名古屋商業高等学校)
10：30	④	豊かな〈読み〉を育む読書環境をいかにデザインするか －活動理論の枠組みを参考にして－…… 100 水野邦太郎(福岡県立大学)
11：00	⑤	文学の授業過程における，言葉の意味の自覚的・随意的適用 (言葉の意味の発達)に関する実証的研究3 －発達の最近接領域の理論(ヴィゴツキー)を具現化する試み－…… 101 森川拓也(三重県伊賀市立壬生野小学校)
11：30	⑥	「発達の最近接領域に横たわっている発達過程」をよび起こす授業過程 －「三つのお願い」(4年)と「森へ」(6年)の場合－…… 102 ○宮坂義彦(元・三重大学) ○隅内利之(東京都青梅市立友田小学校) ○佐藤栄太郎(東京都青梅市立友田小学校)

10月10日(日)　9：00～12：10

自由研究12　(34号館2階B203教室)

司会者　正田　良（国士舘大学）
須田勝彦（北海道大学名誉教授）

9：00　① 算数問題の素材と現代社会……103
○前田昌宏（(株)スーパーウェブ）
豊永貴士（(株)スーパーウェブ）

9：30　② 算数教科書から捉える教授・学習の志向性
－小数乗法単元の比較研究からのアプローチ－……104
河野麻沙美（東京大学）

10：00　③ 幼児を対象とした「引き算」理解に関する調査研究……105
斎藤　裕（新潟県立大学）

10：30　④「少しでも分りたい」という要求に中・高の数学教育は応えて来たか？
－大学生の低学力がもたらした教育方法・評価の改造への取り組み－……106
鈴木京子（日本大学）

11：00　⑤ ヴィゴツキーの考えを取り入れた算数授業のあり方
－子どもの思考発達を促す単元と指導過程－……107
鈴木公司（名古屋女子大学・非常勤）

11：30　⑥ 日本の公教育再編期における初等数学教育の改造と変容
－先行研究の検討と課題の設定－……108
○佐藤英二（明治大学）
○岡野　勉（新潟大学）

自由研究13　(34号館2階B204教室)

司会者　木内　剛（成蹊大学）
船越　勝（和歌山大学）

9：00　① Zeichner, K. における多文化教育と教師教育の展開……109
上森さくら（大阪市立大学大学院）

9：30　②「つぶやき」が構成する多層的対話の検討
－中学校英語科授業における協働性に着目して－……110
東條弘子（東京大学大学院）

10：00　③ 多文化教育における文化についての学習内容と方法
－韓国・朝鮮の音楽の教材化に向けて－……111
磯田三津子（京都橘大学）

10：30　④ 外国語としての英語の教育における母語の役割に関する批判的考察
－授業を「英語で行うことを基本とする」のは学習者にとって有益か－……112
亘理陽一（静岡理工科大学）

11：00　⑤ 教育課程特例校制度下の英語教育における「教育課程・教材・文字指導」に係る課題とその解決試案……113
加納幹雄（金沢大学）

11：30　⑥ 多言語社会における言語教育カリキュラム開発への視点
－沖縄・大久保・ベトナム少数民族地域の共同授業研究を通して－……114
○村上呂里（琉球大学）
○善元幸夫（琉球大学）
○西岡尚也（琉球大学）

10月10日(日)　9：00～12：10

自由研究14　（34号館2階B205教室）

司会者　久野弘幸（愛知教育大学）
　　　　久田敏彦（大阪教育大学）

9：00　① ストランド型シティズンシップ教育カリキュラムにおける「政治的リテラシー」の位置と特質……115
　川口広美（広島大学大学院，日本学術振興会特別研究員）

9：30　② 知識基盤社会における確かな学力と生きる力の育成
　―紙と鉛筆から始める情報学教育―……116
　安谷元伸（滋賀大学教育学部附属中学校）

10：00　③ プロジェクト型授業の展開と可能性に関する一考察……117
　渡邉眞依子（鈴峯女子短期大学）

10：30　④ ギーフェンベック基礎学校プロジェクトの学校構想とその実際
　―「教育的教授」論を機軸とした学校構想とその実際―……118
　牛田伸一（創価大学）

11：00　⑤ 教科，統合，生活創造による学校カリキュラムの構成に関する研究……119
　○小野間正巳（静岡大学教育学部附属浜松小学校）
　○山﨑保寿（静岡大学）

自由研究15　（34号館2階A207教室）

司会者　阿部好策（新潟大学）
　　　　渡部淳（日本大学）

9：00　① スポーツ指導の空間構成に関する教育方法学的研究……120
　大瀬元貴（広島大学大学院）

9：30　② ドラマ手法を用いた小説読解の研究
　―「語り」とは，他者の存在を希求するよびかけなのだ―……121
　青木幸子（跡見学園高等学校）

10：00　③ 教育方法としてのドラマ
　―誰かまたは何かになること―……122
　武田富美子（立命館大学）

10：30　④ 「楽しい体育」実現のための方策についての一考察
　―演劇的手法の活用―……123
　○藤井洋武（日本大学大学院）
　加藤真利江（日本大学・非常勤）

11：00　⑤ 学級活動から演劇的表現活動へ
　―「ノリ」の連続性とその発展を通して―……124
　○小川博久（聖徳大学）
　○岩田遵子（東京都市大学）

10月10日(日)　9：00～12：10

自由研究16　(34号館2階A208教室)

司会者　西岡けいこ(香川大学)
諸岡康哉(金沢大学)

9：00　① ラーニング・ストーリーの実践的応用と課題
　　－実践を通して明らかとなった利点と問題点－……………………………… 125
　　橋川喜美代(鳴門教育大学)
　　○松本崇史(鳴門教育大学大学院)

9：30　② 学生の人生の目標と保育者の専門性の養成を統一する授業内容のための一考察
　　－学生の内実の成長についての検討－……………………………………… 126
　　寺島明子(松本短期大学)

10：00　③ 保育者養成における課題1
　　－場面指導に見られる学生の実態－………………………………………… 127
　　安部孝(埼玉純真短期大学)

10：30　④ 乳幼児の集団づくり実践における今日的課題………………………………… 128
　　光本弥生(鈴峯女子短期大学)

11：00　⑤ 現代の子どもが求める保育行為に関する一考察……………………………… 129
　　草信和世(川村学園女子大学)

11：30　⑥ 乳児の集団遊びにおける保育者の身体的関与は如何にあるべきか
　　－「あぶくたった」の事例を通して－ ………………………………………… 130
　　根津明子(東京都市大学)

自由研究17　(34号館3階A308教室)

司会者　小泉祥一(東北大学)
本田敏明(茨城大学)

9：00　① 中学校籍教員の小学生に対する授業の特質
　　－小中一貫校における事例分析－…………………………………………… 131
　　○樋口直宏(筑波大学)
　　落合一浩(筑波大学大学院)

9：30　② 異校園連携教育を支援するツールの開発とその運用評価に関する研究……… 132
　　小柳和喜雄(奈良教育大学)

10：00　③ 「協力」と「協同」の学校を目指して(2)
　　－校長からの聞き取りを通して－…………………………………………… 133
　　中妻雅彦(愛知教育大学)

10：30　④ 授業研究を核とする学校づくりに関する実証的研究……………………… 134
　　狩野浩二(十文字学園女子大学)

11：00　⑤ 授業指導力を向上させる授業研修のとりくみ
　　－教育現場と大学をつなぐ授業研究から－………………………………… 135
　　○小島勇(東京電機大学)
　　○山住直政(東京電機大学中学高校)

10月10日（日）　13：15～15：15

課題研究Ⅲ

教育方法学の学問的固有性とは何か

（34号館３階Ｂ303教室）

コーディネーター
　梅　原　利　夫（和　光　大　学）
　中　野　和　光（美　作　大　学）

司会者
　井ノ口　淳　三（追手門学院大学）
　梅　原　利　夫（和　光　大　学）

提案者

　安　彦　忠　彦（早稲田大学）　教育方法学の固有性を「授業研究」に見る … 136

　鶴　田　清　司（都留文科大学）　国語教育学と教育方法学のあいだ
　　―教科教育学の立場から教育方法学の学問的固有性を考える― ……………… 138

　中　野　和　光（美　作　大　学）　教育方法学の学問的性格 ……………… 140

〈設定趣旨〉

私たちは，教育方法学という概念を19世紀末にドイツから学んだ。当初は，教授学，訓育学，養護学を含んだ概念であった。ドイツのほうは，その後，教授学という概念が一般的に使われるようになった。教授学という概念は，旧東ドイツ教授学のように，学校教育制度を含んで構想されることもあったが，現在は，教育内容と教授法の研究をさして使われている。方法学という概念は教科教授方法学をさすことが多い。米国では，カリキュラムは教育学の研究者が，授業は教育心理学の研究者が研究するのが一般的である。教育方法学の学問的固有性は何だろうか。教育方法学と名乗ることの積極的意味，今後の研究のあり方について検討してみたい。

10月10日（日） 13：15～15：15

課題研究Ⅳ

学習評価の観点の改訂と授業の改善

（34号館３階Ｂ304教室）

コーディネーター・司会者

片上宗二（安田女子大学）
田中耕治（京都大学）

提案者

松浦伸和（広島大学） 学習評価の改訂とその方向性 …………………… 142

阿部　昇（秋田大学） 思考力・判断力・表現力にかかわる評価の在り方と授業改善 ……………………………… 144

三藤あさみ（横浜市教育委員会） 授業改善に生かすパフォーマンス評価 ……… 146

〈設定趣旨〉

中教審の教育課程部会から「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」（平成22年３月24日）が提起され，引き続いて文部科学省初等中等教育局長の名前で，「小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）」（平成22年５月11日）が出された。新しい学習指導要領の下での学習評価の基本が示されたことになる。そこでの注目点は，学習評価の観点に変更が加えられたことであろう。いうまでもなく，学習評価は，指導の在り方を吟味し，子どもの成長度合いを把握し，授業の改善に資するものでなければならない。この立場から，新しく打ち出された学習評価に関する上記の「報告」の内容を検討し，評価研究の成果の上に立って，これからの授業改善をどのように進めることが出来るか，示唆を求めたい。

10月10日（日） 15：30～17：00

ラウンドテーブル①

大学研究者は授業研究にどのように関わっているのか

（34号館3階A308教室）

企画者
鹿毛雅治（慶應義塾大学）
藤本和久（慶應義塾大学）
大島崇（九州大学大学院）

司会者
藤本和久（慶應義塾大学）

話題提供者
秋田喜代美（東京大学）
木原俊行（大阪教育大学）
小林宏己（早稲田大学）
田上哲（九州大学）
鹿毛雅治（慶應義塾大学）

〈設定趣旨〉

授業研究の展開を規定する重要なファクターの一つとして，学校現場に対する大学研究者の関わりを挙げることができるだろう。授業研究のプロセスにおける大学研究者による学校，教師との交流や協同のあり方については，それ自体が重要な研究テーマだと指摘されながらも，これまでに十分な議論がなされてきたとは言い難い。

そこで本ラウンドテーブルでは，授業の場に大学研究者として立ち会う経験を持つ者同士が，自分自身の関わりを振り返り，その理念や実態について語り合うことを通じて，上記のテーマに関する課題を見出したり，今後の交流や協同のあり方について展望したりすることを目的とする。

具体的には，「目的・意図」（「何のために授業研究に関わるのか」「どのような意図に基づいて何をしているか」など），「方法・方略」（「どのようなアプローチを重視しているか」「何に配慮して振る舞うようにしているか」など），「省察・改善」（「大学研究者が与える影響についてどのように自覚化しているか」「どのようなリソースや経験を生かそうとしているか」「研究者自身の専門領域との関連をどのようにとらえているか」など）を話題にする予定である。

授業の現場に対する大学研究者の関わりをあらためて「実践」として捉え直すとともに，授業研究をめぐる各自の体験を共有しつつ対話を深めるような場としたい。

10月10日(日)　15：30～17：00

ラウンドテーブル②

教育方法のトポロジー (3)

─教科学習と結びついたドラマ活動─

(34号館3階A309教室)

企画者
渡部　淳(日本大学)

提案・司会者
渡部　淳(日本大学)
深澤広明(広島大学)

課題提起者
渡辺貴裕(帝塚山大学)

コメンテーター
宮崎充治(桐朋小学校)
青木幸子(跡見学園高等学校)
武田富美子(立命館大学)

共同研究者
宮原順寛(長崎県立大学)
三橋謙一郎(徳島文理大学)
藤井洋武(日本大学大学院)

〈設定趣旨〉

日本の学校では，表現力や創造性を伸ばすためにドラマ活動（演劇的活動）を取り入れるというイメージが支配的である。しかしそれだけでなく，全身の感覚を駆使するドラマ活動は，学習者に各教科の内容を，より深く，より統合的に学ばせるためにも有効である。そのため，イギリスの小学校などでは，ドラマを通した授業改革・学校改革の取り組みも始まっている。そうした事例は，日本の学校教育にとっても示唆的なものである。

そこで本ラウンドテーブルを以下のように展開したいと考えている。まずイギリスの小学校の教科学習と結びついたドラマ活動の実践事例を，記録映像などを用いて報告・分析する。この報告・分析をめぐり，様々な教科や教職科目に実際にドラマ活動を取り入れてきた実践的研究者がコメントする。それらを手がかりとして，ドラマ活動が学習者にもたらすもの，日本のカリキュラムにおけるドラマ活動の位置づけ，教師の働きかけ方の工夫などについて参加者全員で検討を行う。

なお，本ラウンドテーブルは，「ドラマワークによる文学作品の読解と教材開発」「ドラマワークを活用した教師研修の可能性」に続く3回目のセッションである。

10月10日（日） 15：30～17：00

ラウンドテーブル③
子どもは学校に何を求めているのか
（34号館3階A310教室）

企画者・司会者
　鶴田敦子（聖心女子大学）

報告者
　西野博之（NPO法人フリースペースたまりば）
　船橋一男（埼玉大学）
　伊深祥子（元・埼玉県与野西中学校）

〈設定趣旨〉

2008年に告示された小学校学習指導要領により，小学校には，教科英語が設置されることになり，各教科の時間数をみると，小・中学校ともに，いわゆる５教科と体育だけが時間増という構図になった。学習指導要領の前倒しといわれる現在は，小学校では算数の授業で，中学校では数学や英語等の授業で，少人数クラスの設置が進められ，習熟度別クラス編成を行っているところも少なくない。子ども達や保護者は，習熟度別クラスであることを隠しても，そうであることを敏感にくみ取り，成績下位者クラスになった保護者は，丁寧な教育をしてくれるならそれを受け入れようと，納得がいかない気持ちを抑えている。

しかし，子ども達は，そのような理性で自分を納得させているのだろうか。

そもそも，子ども達の全てが，いわゆる５教科と学力テストに象徴される学びを，「将来のためだから」という大人の説明に納得しているわけではない。「私たちには，学びたいことを自身に合った方法で学ぶ権利がある。学びとは，私たちの意思で知ることであり他者から強制されるものではない」と，『不登校の子ども権利宣言』（2009）は述べるが，子ども達は，今，自分が生きており，生活しているそのことと，学校の学びとの間のギャップ（ずれ）にもがいているように思える。授業の中で，多くの場合，教師は自分が期待した答えは十分に取上げ，予想に反したあるいは教師にとっては的はずれの答えをした場合には，「他の意見は？」とずらしていくことが多い。このような対応が続く中で，教室の中には，主流の子ども達と周辺の子ども達という構図が形成されていく。それだけでなく，後者のような対応を何度か受けた子どもはやがて教室に自分の居場所がないと感じ，学校の学びから遠ざかる選択をする例も少なくない。

本ＲＴでは，子どもは何を学ぶことを求めているか，さらにどのような方法の学びを求めているかという点から，３名の方から報告を受けた後，子どもがレリバンスを感じることの学びを学校で実現するには，どのような課題があるかについて討論を深めたいと思う。

10月10日(日)　15：30〜17：00

ラウンドテーブル④

学校改革における実践者と研究者の協同
―専門家コミュニティの形成をめざして―

(34号館２階A207教室)

企画者

北田佳子(富山大学)
齋藤智哉(國學院大學)

司会

藤井康之(奈良女子大学)

話題提供者

佐藤雅彰(富士まなびの会)
稲葉義治(静岡県富士市立田子浦中学校)
丸山和彦(静岡県富士市立須津中学校)
齋藤智哉(國學院大學)
北田佳子(富山大学)

〈設定趣旨〉

学校は，子どもの学びを保障するだけではなく，教師にとっても学び続けることのできる場でなくてはならない。このような学校づくりにおいて，学校の内部から改革を推進する実践者と，外部から支援をする研究者が，互いの専門性を活かしつつ，互恵的に学び合い，協同していくことのできるコミュニティの形成は，今後益々求められるだろう。

本ラウンドテーブルでは，このような改革に協同で取り組んできた実践者と研究者を交え，ともに語り合いながら，これからの学校改革に必要とされる専門家コミュニティの在り方や，形成に向けての諸問題を検討する。

まず実践者側の報告として，静岡県富士市の公立中学校長，および退職後も全国の学校づくりにアドバイザーとして積極的にかかわっている元校長から，生徒の学びの質を高めるために，教師が同僚とともに学び続ける場をどのように保障しているのか，研究者がその場にどのようにかかわることによって，専門家コミュニティが形成され，学校づくりが推進されていくのか，その取り組みのプロセスとともに，可能性と課題を提起する。

続いて研究者の立場から，学校改革に研究者としてかかわる時に意識していることや，学校という空間において他者として感じていること，また実践者や子どもたちから学ぶことなどを報告する。通常ならば言語化されない内容も含んだ個別具体的な話題提供になるため，研究の俎上には乗りにくい部分も多く含まれるだろう。しかし，学校改革に必要とされる専門家コミュニティのヴィジョンを描くために，実践者と研究者双方が感じていることを語り合い共有することで，課題を見出すことができればと考えている。

10月10日（日）　15：30～17：00

ラウンドテーブル⑤

授業者の立場から「発達の最近接領域」の具体像（文学教材の授業他）を追求する試み（3）

（34号館2階A208教室）

企画・司会・提案者
宮坂義彦（元・三重大学）

問題提起者
石井俊樹（名古屋市立大森小学校）
佐藤栄太郎（東京都青梅市立友田小学校）
隅内利之（東京都青梅市立友田小学校）
戸田淳子（前・長野県伊那市立手良小学校）
松山豊（福島県須賀川市立白江小学校）
森川拓也（三重県伊賀市立壬生野小学校）

〈設定趣旨〉

今回のテーマは以下の二つである。

1．文学教材の授業過程に発達の最近接領域をどうつくるか。

ヴィゴツキーによれば，「まったく疑いのない，論争・反駁の余地のない事実は，概念の自覚性と随意性という，生徒の自然発生的概念には未発達の特性は，完全にかれらの発達の最近接領域にあるということ，つまり，大人の思想との共同のなかで顕現し，活動をはじめるということである。」（『思考と言語』p.318）

文学の目的は，（大江理論によれば）「認知」状態（概念的）にある読みのイメージを，「明視」状態（具体的）に変えることにある。文学教材の授業の目的も同じである。変化の契機は，（「見なれない，不思議だ」という感じを与える）文学表現の言葉（「異化」）がひき起こす問題である。授業では，これが対立問題に発展し，子ども間に，解釈をめぐって対立が生じる。この論証過程で子どもが対立を解決するのに必要となるのが，証拠としての科学的概念である。必要にせまられて，教師の指導の下で，子どもによる未発達の概念の自覚（言葉の定義）と概念の制御（適用）の模倣が開始される。これが発達の最近接領域の内容である。このラウンドテーブルでは，参加者からのさまざまの助言を期待して，私たちが実際に行っている発達の最近接領域作りの授業過程を，映像あるいは授業記録などの資料で提示する。予定している教材は，6年の「カレーライス」「森へ」「ヒロシマのうた」「未確認飛行物体」，4年の「白いぼうし」「三つのお願い」，2年の「スイミー」である。

2．発達の一環としての形式陶冶

ヴィゴツキーによれば，「さまざまの教科の学習の心理的基礎のいちじるしい共通性。このことは，それだけで，ある教科の他の教科への影響の可能性，したがって，あらゆる教科の形式陶冶の可能性を保証する。」（「共通性」は，主として，「自覚」と「随意（制御）」）

学年間，教科間などに見られる形式陶冶的現象の調査結果を発表する。

10月10日(日) 15:30～17:00

ラウンドテーブル⑥

現職が取り組む「生徒に価値がある模擬授業研修会」

―東京電機大学中学高校の若手有志教員による継続実践から―

（34号館3階A304教室）

企画者

山 住 直 政（東京電機大学中学高校）

登壇者

山 住 直 政（東京電機大学中学高校）

松 永 航 平（東京電機大学中学高校）

内 山 真 司（東京電機大学中学高校）

幸 治 茂 弘（東京電機大学中学高校）

他数名（講師を含む）

〈設定趣旨〉

我々東京電機大学中学高校の有志教員は，2009年4月から2カ月に1回を基本として計9回の模擬授業を自主的に実施してきた。教科も学年も年齢も違う中学高校の教員が，なぜ1年以上模擬授業を継続できたのか。

それは，ここで取り組んでいる模擬授業が，授業者も参加者も授業力を向上できるからである。その経緯，その手法，その理由を参加者に体験していただく機会を提案する。

東京電機大学中学高校（以下本校）では，研究授業などの授業力の向上を図るための改善や研修を，教員相互でやってこなかった。教材研究は，教員個々が行い必要に応じて先輩教員にアドバイスを求めるということが慣例であった。普段の授業において，授業のどこが良く，どこを改善すれば自分の授業がよくなるかという研究視点が共有されることはなかった。そのような中，教科の枠，経験年数を超えて連携できる授業研究に取り組んできた。

本校の授業研究でおこなっている手順の概要は以下となる。手法は東京電機大学理工学部小島教授が提案されている〈分ちあい〉を取り入れた授業研究である。

(1) 1人が15分～20分程度模擬授業を行う。

(2) 授業終了後，5分程度時間を取り，授業の良い点，具体的改善点を用意されたシートにメモする。

(3) 3名ずつのグループを作る。

(4) グループ内で，メモした良い点，改善点を発表する。相手の話を聞く時は黙って，〈共感的傾聴〉という心がまえで聞く。質問，意見等はしない。聞き放し，言い放しとする。

(5) グループ内で1名代表者を決める。代表者は，教壇に立ち，グループ内で発表された良い点，改善点の中から内容を絞り，参加者の前で発表する。良い点を多く発表する。

(6) すべての代表の発表が終わり，その後，意見交換を行うことで深く理解が進む内容があれば，意見交換の時間を取る。

(7) 最後，授業者は，自分の授業，代表者の意見などから，自分の意見を述べて終了となる。

10月10日（日）　15：30～17：00

ラウンドテーブル⑦

教育実習前に「教育現場に通じる授業指導力を身につける」取り組み
―東京電機大学における〈学生主体の授業研究と研究協議〉から―

（34号館３階A305教室）

企画者

小　島　　勇（東　京　電　機　大　学）

登壇者

東京電機大学　理工学部４年　楢原　章規・山田麻奈未・大塚悠莉子・斉田　優一
新井　健司・堀本　航平・細田　美香・鳴海　　航
長谷川真弓・小川　　俊・中里　龍介・渡辺　大雅

東京電機大学　理工学部３年　小菅　美紀・清野　純樹　　（その他有志学生）

〈設定趣旨〉

本学は理工系大学のため，教育学部や教育学科がある他大学の学生と比べ，教職への関心や意識では大きな違いがあるといえます。また教職課程も，教育者育成を目的としたものでないため履修内容もずいぶん違いがあるといえます。そこで，そのような差を埋めるにはどうすればいいのか，また，理系大学でも教育現場に通じる実践力を身につけるためにはどうしたらよいのか。

学生たちの９年前の先輩たちから（小島が本学に就任した時から），学生主体でとりくむ授業研究を重ね授業指導力の向上を目指してきました。現在，学生たちは，それら取り組みを受け継ぎ発展させてきました。この取り組みには手引書などはなく，全てを協議し学生中心で行っています。例えば，事前科目・３年後期の「教育実践研究入門」では，まず授業づくりの経験と実力が十分な４年生の模擬授業から学び，その後，短い期間で実力の向上を目指し行っています。その準備では，昼休みに会議を行い，授業全体の流れを決め，最初から最後まで学生が運営をしています。学生同士の授業研究では，生徒の立場で授業を受け，同時に授業の良い点と課題点，そして具体的改善案を見つけるとりくみをしています。よりよい授業を，他の人の授業指導から学び観察し，どのポイントが良く，また最低限見なければならないのはどの点なのか，また，授業を行っている教師としての個性を理解した上で，より建設的なアドバイスや提案はどうあるべきか，絶えず分かち合うようにしています。問題指摘や批評ではなく，具体的改善案を言い，実際に指導方法を演じて提案するなど，皆で授業の向上を共有していくことを大切にしています。

以上のことをラウンドテーブルでの貴重な時間を使わせていただき，未熟ではありますが，学生たちが行っている授業研究を具体的に発表したいと考えております。よろしくお願いいたします。

10月10日(日) 15：30～17：00

ラウンドテーブル⑧

保育者養成における学生が育つ授業の方法について

(34号館3階A306教室)

企画者・司会者

寺 島 明 子(松 本 短 期 大 学)

提案者

寺 島 明 子(松 本 短 期 大 学)

大 野 和 男(鎌 倉 女 子 大 学)

〈設定趣旨〉

保育現場では，子どもたちを育む環境の変化に伴い，幼稚園教育要領・保育所保育指針（2008年）が告示され，それに従い保育が行なわれている。

一方，保育者養成校において，学生の学力の低下・授業中の私語の出現などが問題視されている。その結果，保育実習や就職後の保育者としての質の低下を招いているのではないだろうか。

保育者の質とは，専門的な知識・技術といった能力と，責任感や頑張ってやるといった人間的な資質の二面がある。なお，1998年の教育職員養成審議会第一回答申では，「二十一世紀の教師のあり方と教師教育のあり方」について提言し，「教師の資質能力」を「専門的職業である『教職』に対する愛着，誇り，一体感に支えられた知識，技能等の総体」と定義した。そして，それを「資質と呼ぶべき部分」と「この部分に支えられた知識，技能等の部分」に区別している。このようなことから，保育の資質能力，つまり，保育における「保育援助力」として位置付けることができると考える。保育援助力とは，保育者が子どもを把握し，その子どもにあった指導計画が立てられ，一人ひとりに合った適切な援助ができることである。そしてそれらに付随し，教材の意味付けや提供がなされることである。

そのためには，保育者養成校において，教育実践力の形成の場が必要である。この教育実践力のさまざまな内実づくりに努力し，「教育実践地研究」の構想と実際を生み出す授業実践が大切である。

これらのことを踏まえて，当ラウンドテーブルは，学生の置かれている状況を把握しながら，「保育者養成における学生が育つ授業の方法について」，どのような授業内容を提供していけばよいのか検討を行う。また，参加頂いた方々より積極的なご意見をお聞きしながら，学生にとって育つ授業内容を考えていきたい。

保育者養成校で教鞭をとっておいでの先生方や，将来養成校の先生になりたい学生の方々にお集まり頂いて，積極的な検討を期待したい。